

昭和50年8月25日 印刷

昭和50年8月30日 発行

編集兼
発行者

国立防災科学技術センター
東京都中央区銀座6丁目15番1号
電話(03)541-4721 郵便番号104

印刷所

株 実 業 公 報 社
東京都千代田区九段 4-2-12

正誤表

内海汚濁のモデルとシミュレーション (第2報)

国立防災科学技術センター研究速報 第16号

3p. 11行目 $P \cdot b \cdot h / D, N \cdot n \cdot b \cdot h / D$
 \downarrow \downarrow
 Y Y

13行目 $P \cdot b \cdot h \cdot q / D$ ただし, $Y = \min(P, N/n)$
 \downarrow 追加
 Y

内海汚濁のモデルとシミュレーション (第2報) - 渡辺・大倉・尾崎

(2) PとNの結合

無機態リン1単位と無機態窒素n単位が結合する。ただし

(i) 単位時間内に、現存する無機態のリン、窒素のすべてが結合してしまわずに、

$P \cdot b$ と $N \cdot n \cdot b$ が結合する($n > 1, b < 1$)。

(ii) P, Nは結合した分だけ減少する。

(iii) OODは、無機態リンの結合量1単位に対してq単位だけ増加する($q > 1$)。

(iv) このような結合は、有光層のみにおいて行なわれる。有光層の厚さはOOD濃度が大きいほど小さい。

かくて、無機態のリン、窒素の単位時間当りの結合量(したがって、減少量)は、それぞ

れ $\begin{matrix} Y & & Y \\ \swarrow & & \swarrow \\ \textcircled{P} \cdot b \cdot h / D, & \textcircled{N} \cdot n \cdot b \cdot h / D \end{matrix}$

であり、OOD濃度の増加は

$Y - \textcircled{P} \cdot b \cdot h \cdot q / D$ ただし, $Y = \min(P, N/n)$

である。PN結合係数bは、原則として単位時間ごと(特に季節ごと)に異なる。

(3) 自然浄化

OODは、単位時間に $OOD \cdot d$ だけ自然浄化により減少する($d < 1$)。自然浄化係数dは、原則として単位時間ごとに異なる。